



# 八松小だより

## 学校教育目標

「心豊かな人間性を養い、自ら学び  
自ら行動する子どもを育てる」  
合言葉「私ってすごい！みんなすごい  
やったぞ！できたぞ！の声がいっぱい！」



2025年（令和7年）11月号



## — 第79回読書週間標語「こころとあたまの、深呼吸。」 —

校長 瀧谷 典子

急に秋の風が肌寒く感じる季節になりました。

さて、読書週間は、毎年10月27日から11月9日までの2週間にわたり、読書の楽しさや意義を広く呼び掛ける全国的な運動です。戦後まもなく「平和で文化的な社会を築くために、読書を広めよう」という願いから始まりました。本を読むことが、心を豊かにし、人と人とを結び、よりよい社会をつくる力になる——その思いは今も受け継がれています。

この運動の標語は、公益社団法人読書推進運動協議会が全国から募集・公募し、最も心に響く言葉を選定しているものです。今年の読書週間の標語は、「こころとあたまの、深呼吸。」（磯辺菜々さん作）です。

日々の忙しさの中で、心も頭も少し疲れたなど思うとき、一冊の本を開くことで、まるで深呼吸をするように気持ちが落ち着くことがあります。読書は、知識を得るだけでなく、心を整え、新しい考えに出会う時間でもあります。子どもたちにも、この秋「読書の深呼吸」をたくさん味わってほしいと思います。

今年のノーベル文学賞には、ハンガリーの作家ラースロー・クラスナホルカイ氏が選ばれました。受賞理由は、「壊滅的な恐怖の中で、芸術の力をあらためて証明した、説得力とヴィジョンあふれる作品群」に対して授与されたものです。

過去の受賞者の中には、子どもにも読みやすい作品を残した作家もいます。アメリカの作家トニ・モリスンさん（1993年受賞）は、息子のスレイドさんとともに、子どもたちの心に語りかける絵本をいくつか書きました。みすず書房から日本語訳が出ている『子どもたちに自由を！』を紹介します。

パティ、ミッキー、ライザ・スーの3人の子どもたちが、大きな箱の中で暮らしています。彼らは、自由が大好きです。「もっと自由に生きなくちゃ」と思っています。しかし、大人たちから言われます。「きみたちは、じぶんたちの自由というものを大事にしていない」と。

子どもたちは、大人のいう自由と、子どもたちの感じる自由——そのすれ違いの中から、「自由とは何だろう？」と考え始めます。読者も“本当の自由とは？”と静かに考えさせられます。この絵本の始まりは、トニ・モリスンさんの息子のスレイドさんが、学校で「あなたは自分の自由を大事にしていない」と注意されたことをきっかけに、親子で自由について何度も話をし、トニ・モリスンさんがスレイドさんの考えや悩みを真っ直ぐに受け止めて書きおろしたものだそうです。この本を親子で読んで、「あなたにとっての自由とは？」「自由ってなんだろう」語り合ってみるのも素敵です。



また、今年のノーベル生理学・医学賞では、日本の坂口志文教授（大阪大学）が受賞されました。坂口教授は、体の中で“免疫のブレーキ”の役割を果たす制御性T細胞を発見し、免疫の暴走を防ぐ仕組みを明らかにしました。体を守るT細胞が、働きすぎず、ちょうどよく機能することで私たちは健康を保っています。

ノーベル生理学・医学賞発表後に、本校の図書館で、「はたらくT細胞」や「体のひみつ」をテーマにした本が紹介されています。身近なニュースから科学の世界へと興味が広がっていくようにと、図書館専門員さんが関連する図書を子どもたちが手に取りやすいように並べてくれました。

また、本校の図書館では、図書館専門員さんが、授業や学習の時期に合わせて、教材や関連する図書を手に取りやすい場所に陳列してくださっています。特に国語では、教材として学んでいる物語の作品や作者の他の作品や関連するテーマの本が並べられています。子どもたちは「このお話を書いた人の別の本も読んでみたい」と興味を広げ、教室での学びが図書館で自然に深まっています。また、理科や社会など他教科の学習内容に合わせた図書もタイミングよく紹介され、学びと読書がつながる工夫がみられます。

さらに今年は、国内外の名作や長く読み継がれてきた良書も新たに購入し、図書館をより充実させています。「気になる」「ちょっと読んでみようかな」という気持ちが、次の学びや発見につながってほしいと願っています。この秋、子どもたちが本を通して心を動かし、世界を広げていけるように——。

ご家庭でも、どうぞ読書の深呼吸を楽しんでみてください。

## 11月の目標

### 2学期の目標

みんなでなかよくたすけあいましょう

### 生活目標

手洗いをしっかりしよう

### 保健目標

うがい・手洗いをしよう

### 給食指導の目標

好き嫌いなく食べられるようにしよう



## 11月の行事予定



配付した八松小だよりの通りです



## 11月の集会活動

11月17日(月)の5時間目に全校児童で集会活動を行います。

集会委員会が中心となって「スタンプラリー」を企画しています。

活動は、1・6年、2・4年、3・5年の「ペア学年」でグループをつくり、4～5人の異学年の仲間と一緒に校内を回りながら、ミッションやクイズに挑戦してスタンプを集めるものです。

集会委員会の児童が、クイズを考えたり、ミッションを準備したりして運営を担当します。

異学年がふれ合い、声をかけ合いながら協力して取り組む中で、学年をこえたつながりや思いやりの気持ちを育むことをねらいとしています。

どんなミッションが待っているのか、今からワクワクします。

「協力」と「交流」が広がる楽しい時間になることを期待しています。



## 八松小の寒い時期の体育着について

寒さが増してきました。子どもたちが、これからの季節、体を温めながら安全に活動できるように、体育の服装について次のようにお知らせします。

- 寒い日は、ジャージのズボンをはいて運動することができます。
- 寒い時は、体操着の上に体育用のトレーナーを着ましょう。事故防止のためフードやジッパーなどのないものを着用してください。トレーナーや長ズボンは、体操着の上から着て、脱ぎ着ができるようにします。
- タイツやレギンスは脱ぎ、靴下をはきましょう。

## 【12月の予定】



## 石拾い集会～環境委員会～

環境委員会の企画で、10月3日（金）の朝、運動会に向けて全校児童で石拾いや校庭周りの草取りを行いました。

はじめに、委員長が活動の目的と説明をし、みんなで活動をスタートしました。

1年生から3年生は校庭の石を拾い、環境委員が持っているバケツに入れました。4年生以上は、校庭周辺の草を抜き、用務員さんが用意してくださった青いコンテナに草を集めました。

わずか10分ほどの活動でしたが、子どもたちの協力で、校庭が一段ときれいになり、運動会を気持ちよく迎える準備が整いました。

最後に、環境委員が集まった石や草をプール近くのごみ小屋まで運び、活動を締めくくりました。

## 園芸ボランティアの皆さん、ありがとうございます

10月8日（水）、PTAの園芸ボランティアの皆さんが、運動会に向けて校庭の草取りをしてくださいました。毎回たくさんの方にご参加いただきありがとうございます。

給食調理場の周りの草も丁寧に刈ってくださり、ジャングルジムの中に生えていた草まできれいに取っていただきました。

給食調理場の周囲がすっきりしたことで、虫が生息しにくい環境となり、安全な給食づくりにもつながっています。

最近はお父様方の参加も増えており、力強く支えてくださる姿に感謝の気持ちでいっぱいです。



## 運動会「赤組も白組もファイト一発！ ～自分を信じて、仲間と共に～



秋空の下、第64回八松小学校運動会を開催しました。

「綱引きを強く引っ張って頑張りたい」「リレーで最後まで走りきりたい」「かっこよく表現したい」など、子どもたちはそれぞれに目標をもち、練習から一生懸命に取り組んできました。

そして、「徒競走で一番になりたい」「団体競技ではチームワークを大切にしたい」と、仲間と励まし合いながら力を合わせてきた姿に、運動会への期待が高まってきました。

当日は、緊張の中にも笑顔があふれ、子どもたちは全力で競技・演技に取り組みました。

見ている人まで元気をもらうような、いきいきとした姿が校庭いっぱいに広がりました。

子どもたちから「楽しかった！」「全力で頑張った！」「みんなで参加できてよかった！」といった声が聞こえ、達成感と成長を感じる一日となりました。

閉会式では、私から「自分を信じて全力で頑張ること。協力してくれる仲間がいること。応援してくれる人がいることが最高の結果につながった。」という話をしました。

また、応援団の力強い声、高学年の係の仕事ぶり、そして仲間を応援する温かい気持ちが、運動会を大きく支えました。さらに、受付を担当してくださったPTAの皆さん、見守りや片付けを手伝ってくださった「チーム八松」（本校お父様方のボランティア組織の皆さん）、そして最後まで片付けを手伝ってくださった保護者の皆さん、本当にありがとうございました。多くの方のご協力と子どもたち一人ひとりの努力と、保護者・地域の皆様の温かい応援のおかげで、今年の運動会になりました。ありがとうございました。



**鑑賞教室「シンドバッドの大冒険」**  
**～勇気と笑いあふれる舞台～**

10月27日（月）、劇団ポプラ座による舞台「シンドバッドの大冒険」を鑑賞しました。迫力ある演技と音楽や歌声、色鮮やかな舞台装置に、子どもたちは物語の世界に引き込まれていました。

物語の主人公シンドバッドは、世界一の船乗りになることを夢見る心優しい少年です。ある日、勇気を出して船旅に出たシンドバッドは、嵐に巻き込まれて見知らぬ島に流れ着きます。そこでは、巨人や魔法使い、怪物ロック鳥など、不思議な生き物たちが待ち受けていました。危険な目に遭いながらも、シンドバッドは知恵と仲間の力で次々と困難を乗り越えていきます。

旅の途中、美しいお姫様が悪い魔法使いにさらわれてしまいます。シンドバッドは仲間と力を合わせて勇敢に立ち向かい、見事お姫様を救い出します。そして、お姫様と心を通わせ、結婚して幸せに暮らすこととなります。旅を通してシンドバッドは、「本当の勇気とは、恐れないことではなく、大切な人を思う心から生まれるもの」だと気づくのです。

鑑賞後、子どもたちからは「シンドバッドの勇気がかっこよかった」「お姫様を助け出してよかった」「ユーモアたっぷりの演出に笑ってしまった」などの感想が聞かれました。



**秋晴れの下、3年生笑顔いっぱいの遠足**

10月28日（火）、3年生は、小田原のわんぱくランドへ遠足に行きました。秋晴れの爽やかな一日、子どもたちはバスに乗って元気いっぱいに出発しました。

午前中はグループ行動で、公園内のターザン広場、あおぞら広場、コスモワールド、緑のグレンデ、小田原城アドベンチャーなど、行きたい場所を相談しながら回りました。段ボールをソリにして滑ったり、遊具で体を動かしたり、自然の中で思い思いに遊びました。お昼ご飯を食べたあとは、クラスの枠をこえて自由行動。子どもたちからは、「グループで1枚の段ボールソリを作って持っていったよ。代わりばんこに使って、たくさん滑ったよ。」「アスレチックで鬼ごっこをしたのが面白かった。」「ネットのタワーのてっぺんまで登ったよ！」など、楽しそうな声がたくさん聞かれました。

秋空の下、友達と協力して遊び、自然の中で思いやりを動かした、心に残る一日となりました。



**藤沢市学校保健会第68回学校保健大会のご案内**

【主催】 藤沢市学校保健会 藤沢市教育委員会  
 【後援】 藤沢市医師会 藤沢市歯科医師会 藤沢市薬剤師会

**1. 研究発表**

藤沢市の学校給食における地産地消の取り組み  
 ～つながり、ひろがり、つづけていくためにできること～  
 栄養士部会 三浦 幸子



**2. 講演**

「朝起きられないのは病気かも・・・起立性調節障害の症状と学校や家庭における対応について」

【研究】 田中 大介（たなか だいすけ）氏



医師 昭和医科大学副学長／教授 昭和大学保健管理センター所長  
 1990年 昭和大学医学部卒業

昭和大学病院NICU 昭和大学附属豊洲病院小児科などを経て2019年から昭和大学保健管理センター所長 2022年から昭和大学副学長  
 日本小児科学会指導医・専門医 日本肥満学会肥満症指導医・専門医著書等

「小児科医が伝えたい 起立性調節障害 症状と治療」(徳間書店)  
 「起立性調節障害(OD)朝起きられない子どもの病気がわかる本」(講談社)

NPO法人子どもの輪 一起立性調節障害を当事者から広める会 リーフレット監修

日本テレビ「news every.」2024年7月3日出演 など

【予定配信期間】 2025(令和7)年11月17日(月)

～2026(令和8)年1月19日(月)



**おおだこ通信**

令和7年10月  
 藤沢警察署  
 生活安全課 少年係  
 スクールサポーター

**インターネットの使い方要注意！！**

●インターネットって便利だけれど！

スマートフォンやパソコンは、メールを送ったり、書き込みをしたり、何かを調べたり、とても便利なものです。使い方やルールを守れば、とても役に立つ道具になりますが、ルールを無視したり、正しくない使い方をすると、事故に巻き込まれたり、あなた自身が被害に遭ったりと、大変なことになってしまいます。



●こんなことされたら誰でも嫌だよね！

悪口や陰口、嫌がらせ、冷やかし、落書き・・・相手の気持ちを考えれば、こんなことはできないはずですよ。

●メールを送ったり、掲示板に書き込むのも同じこと



でも、相手に自分の顔を見られないと思うと、相手の悪口を書き込んだり、メールを送ったり、人に成りすまして嫌がらせのメールを送ったり、普通ではやらないことを書き込んだりしてしまうことがあります。

これはネットいじめです。

軽い気持ちで書いた内容が犯罪になることもあります。絶対やってはいけないことなのです。

またメールのやり取りでケンカになって、命にかかわる事件になったり、いたずらのつもりで書き込んだ爆破予告など、メールで大事件になったことが過去にたくさんあります。



「そんなつもりじゃなかった」は、言い訳にはなりません。

悪意のある使い方は絶対にやめましょう